

「あかつき賞」について

黒潮町の生んだ作家、上林暁先生の業績を顕彰するとともに、本町の教育文化の発展を願って、平成元年（一九八九）「上林暁顕彰会」を結成し、様々な活動を行っています。

その事業の一環として平成二年度より、町内小中学生の作文を対象に「あかつき賞」を授与しています。

選考は当該年度の文詩集『黒潮』への応募作品の中から、各学年一点ずつの優秀作品を、各学校の先生方のご協力を得て選びました。

本賞が町民の間に上林先生への関心を高めるとともに、地域の教育文化の振興に大いに役立つことを確信し、期待しています。

第二十八回「あかつき賞」受賞者名

学年	受賞者名	学校名	題名	指導教員
小学一年	森岡美結	田ノ口小学校	おとうさんのふるさとにきてよかった	大野桂子
小学二年	矢野明珠沙	田ノ口小学校	手じゅつをしたから気づいたこと	平林美和子
小学三年	大林優太	南郷小学校	エビ取り	芝哉
小学四年	川村米音	田ノ口小学校	障子はりは大変	中平巖
小学五年	桜木杏奈	伊与喜小学校	妹が産まれた	畑中長喜
小学六年	津田颯斗	田ノ口小学校	楽しい物作り	下元裕子
中学一年	土居沙也加	佐賀中学校	吹奏楽部	澤近史拓

目次

おとうさんのふるさとにきてよかった	森岡 美結	1
手じゅつをしたから気づいたこと	矢野 明珠沙	6
エビ取り	大林 優太	12
障子はりは大変	川村 米音	17
妹が産まれた	桜木 杏奈	21
楽しい物作り	津田 颯斗	26
吹奏楽部	土居 沙也加	31

おとうさんのふるさとにきてよかった

田ノ口小学校一年 森岡 美結

きよ年のはる、わたしは、よこはましからおとうさんのふるさと、くろしお町へひっこしてきました。

田ノ口小学校の一年生は、わたしを入れて七人でした。入学するまえ、ともだちができるかな、なかよくなれるかなとおもっていましたが、いっしょに学しゅうしたり、あそんだりするうちにすぐなかよくなることができました。はなしことばも、よこはまとちがうところがいっぱいありましたがだんだんとなれてきました。このごろ、わたしはしぜんに「はたべん」をつかうようになってきました。

先生からも

「みゆちゃん、はたべんがじょうずになったね。」



と、いつてもらいました。
ともだちも、

「うん、そうやね。」

と、にこにこしてくれて、とっでもうれしかったです。

二学期、いろいろなさくひんにむけてえをかいていたときは、

「みゆちゃん、えがじょうずやね。」

「すごいたのしくかけちようね。」

「いろが、きれいやね。」

と、みんながはくしゅをしながらほめてくれました。わたしの、がんばりやいいところをすぐほめてくれるなかがいてくれるので、やる気まんまんになります。

わたしたちの田ノ口小学校では、まい日、あさマラソンをしています。入学したころは、あまりはやくはしれませんでした。でも、まい日つづけてはしることで、だんだんとスピードがあがってきました。はしりかたも



ほめてもらって、じしんがきました。そこで、わたしも「くろしお町のえきでん大会」に出ることにしました。ふゆやすみにはおとうさんもいっしょにはしつてくれて、おや子でなかよくれんしゅうしました。よこはまにいたるときは、おとうさんのしごとがいそがしすぎて、かぞくでゆつくりたのしくすごせることがすくなかったのですが、こちらにきてからは、おとうさんやおかあさんたちとあそぶじかんがふえてうれしいです。

一月十三日の「えきでん大会」には、かぞくそろっておうえんにきてくれしました。

「みゆ、がんばれ。」

と、大きなこえでおうえんしてくれたので、力いっぱいはしりました。スタートまえには先生がわたしをギュツとだきしめて、はげましてくれました。

「みゆちゃんだったらぬけるよ。」

といってくれたので、がんばってはしるとほんとうに二人もぬけました。



チームのみんなが力をあわせてがんばったので、いいタイムでゴールしました。

わたしたちの学校は「ピッタリしよう」を二つもとりました。校ちょう先生が一しようけんめいタイムをけいさんして、よそうタイムをかんがえてくださったそうです。「ピッタリしよう」のはっぴようがあったとき、校ちょう先生もほかの先生たちも大よろこびしてくれました。みんな、えがおいっぱいでした。わたしはこんな田ノ口小学校が大すきです。

よるになると、二かいのベランダから、ぼうえんきようでほしを見ることがあります。くろしお町のくう気はきれいなので、空がすみきつていて、ほしがとてもきれいです。ダイヤモンドみたいにピカピカひかっています。ほしたちが、わたしのほうにむかって、ちかづいてくるかんじがします。いつも、わたしはおもっています。おとうさんのふるさとはいいな、きてよかったな…。

おふろに入っているとき、おとうさんがいいました。



「ここは、おとうさんとみゆのふるさとなったな。こうちけんはいいところだぞ。」

これからも、こうちけんや、くろしお町のいいところをたくさん見つけながら、かぞくや学校みんなと、たのしくすごしていきたいとおもっています。

手じゅつをしたから気づいたこと

田ノ口小学校二年 矢野 明珠沙

一年のときのけんしんで、手紙が来たので、お母さんとお父さんとけんみんびょういんに行きました。

けんみんの先生に

「手じゅつした方がいいです。」

と言われました。びっくりしました。お母さんは後ろで、シユンシユンないていました。わたしも半なきになりました。おねえちゃんには一週間ぐらいだまっています。なくからです。言わなかったのは、くるしかつたです。手じゅつをするのは、か川けんのびょういんにきました。手じゅつのことを思ったらなくから、思わないようにしていました。本当はこわかったです。せいこうしてほしいなと思っていました。





二年生の八月に、か川けんのびょういんに入りました。お母さんもおしごとの人に休みをもらっていつしよに行きました。

手じゅつの日は、あまりしらない先生が

「たん当します。」

と言ってきたから、えっと思って少しいやでした。にがいくすりを水なしでのもので、ますいのマスクをしました。

手じゅつのへやに入るまでは、おきていました。でも、それからはねむりました。

人の声をしたから目をさましたら、くらくて、P I C Uのへやにいました。だからせいこうしたがやと思いました。まだぼやっとしていたけど、うれしかったです。その日は、何回もはいてしまってくるしかったです。

近くにお父さんもお母さんもいてくれました。お姉ちゃんは十二才になっっていないから入れませんでした。

三日ぐらいたったらきまりで、お母さんは夜にはか川のしんせきの家に



帰っていきました。夜の八時までがせいげん時間だったので、お母さんがびょういんから帰るときは、わたしはさみしいからなっていました。

でも、わたしが入いんしているときは、お姉ちゃんもさみしかったです。ろうなと思いました。長い間、家にお母さんがいないからです。お父さんとたった二人だったり、いとこの家にいたりして、さみしかったです。思います。

お姉ちゃんが、たいいんのときに、アクアビーズでわたしとどうぶつたちの絵を作ってくれました。「たいいんおめでとう。」の字も書いてくれました。今も大切にしています。

国語で「たからもの」をしようかいするとき、学級の人々に話しました。みんながしつもんしてくれたり「よかったね。」と言ってくれてうれしかったです。

クラスのみんなからもお手紙をもらって、うれしかったです。「元気がなったらあそぼうね」と書いてくれて、早く元気になってあそびたいと思



いました。

たいいんして、すぐ運動会のれん習がはじまりました。三か月は、運動をしてはダメだったので、テントにいました。本当は田ノローメンよこちようとか、リレーとかをやりたいかったです。

わたしは、先生のお手つだいをしました。一りん車の二、三年のだしものフラフープにかざりをつけたり光明くんの手をもったりフラフープをわたしに行くやく目をしました。

みんなが「ありがとう。」と言ってくれて、うれしかったです。

テントではひまだったけど、白のおうえんをがんばりました。一番声をだしたのは、リレーです。

おうえん合せんるとき、いわお先生にほめられてうれしかったです。

三か月たって、十二月にびょういんに行ったときに、やっと運動がOKになりました。やつとうごけると思ってたうれしかったです。朝マラソンをひさしぶりに走ったら、つかれました。と中からフラフラして歩きました



た。それがだんだんおちついて走ったら、また、フラフラして歩いて、それがつづいて、やっとゴールまでたどりついたら、おねえちゃんが、

「だいじょうぶ。」

と言ってくれて、わたしが

「うん。まだ、ちよつとフラフラする。」

と言いました。しんぱいしてくれて、やさしいと思いました。

手じゅつをしてから思ったことがあります。

おねえちゃんがやさしいとすごく思いました。おふろのときも

「いたくない。」

ときいてくれたりしました。

お母さんもお父さんもすごくしんぱいしてくれました。くすりをのまんとかわがママを言っでごめんなさいと思っっています。

友だちもろうかで走らないように気をつけてくれたり、いっしょにトラップとかであそんでくれました。



もう体育もできるから、うれしいです。あそびのときにごおりおにしようって言われていっしょに走ってうれしかったです。もつと体力をつけて来年のえき伝大会にもでたいです。体がうごけるのはいいです。

エビ取り

南郷小学校三年

大林 優太

十月の終わりごろの日曜日に、うきつの川で、こたろうくんとうみくんとぼくとで遊んだ。

さいしよは、タナベの前に集合して、

「どこ行こうか。」

とみんなでそうだんした。ぼくが

「うきつの川に行こう。」

と言ったら、みんなでさんせいしたのでうみくんとこたろうくんとぼくとで、うきつの川に行くことになった。

魚を手でつかまえようとしたけど、魚のにげるスピードが速すぎて一ぴきもつかまえることができなかった。ぼくは、あみをもっていたら魚をつ

かまえれたなあと思った。

魚をとるのをあきらめて川の中を歩いていたら大きい石があったので、
「何かおるかなあ。」

と軽い気持ちで石を持ち上げてみた。そしたらエビが三びきもかくれちよ
った。こげ茶色の手長エビがハサミを前に出してかくれちよった。

「わあ、やったあ。」

「こんなにエビがおるう。」

と、さっそくつかまえようとしたら、

「イタ！」

手長エビに指を思いっきりはさまれた。それで、ぼくはぼうをエビには
さましちよって、その間にせなかの方からいそいでつかまえた。そした
ら、こたろうくんがバケツを持って来てくれた。とれたエビは、大きく
て、りっぱな手長エビだった。ぼくは手長エビをとったのがはじめてでう
れしかった。おいしそうでいっぱいって、うちで食べたいと思った。



そこで他にもいないかなあと思つて石をのけてみると、エビがいっぱいた。ぼくはうれしくなつて、あつちこつちの石をのけてエビをつかまえた。うみくんもまねしてエビをつかまえろうとしていた。

石をふんだ時、ピチャピチャと石の下から出てきたエビもいた。つかまえろうと思つたけど、それにはにげられた。

石の下にかくれていないやつもいた。水の上から見たら三十センチぐらいに見えた。

「でかあ。」

と思つていそいでとろうとしたら、エビは石の下にかくれた。石のまわりを手でかこんで石ごと持ち上げたら、下におつたので思つたよりかんだんにつかまえた。でも、水から出して見るとエビは三十センチもなくて、十センチぐらいだった。思つたよりちっちゃいのがっかりした。

それからもどんどんエビをとつて、バケツにいっぱいエビをとつた。エビはバケツの中でパチパチとはねていた。うみくんが、



「エビ、にげそうになりようで。」

と言ったので、バケツを見ると、エビはハサミを上げて上がってきよつた。バケツからあふれそうだった。一ぴきはにげられた。だいたい三十ぴきぐらいとれた。

全部たべたいなあ。と思って家に持って帰った。お母さんにももろうて食べた。

エビは赤くなっておいしそうだった。お父さんといっしょに食べた。

お父さんは、

「すごいなあ。」

と言ってくれた。

「おいしいね。」

と言って、いっぱい食べた。ぼくもいっぱい食べた。しお味でおいしかった。

お母さんにも、ちよつとのこした。



ぼくはエビ取りがはじめてだったのに、かんたんにいっぱいとれたので、またうきつの川でエビをとりたいと思った。

障子はりは大変

田ノ口小学校四年 川村 米音

十一月の半ばごろの日曜日の朝、水の音がするので外へ出たら、母さんが庭で障子に水をかけていた。（何をしようが？まさかでね）と、思いながら立ってみていると

「よねも障子はり手伝ってくれん？」

ついにさそわれた。そう言われるとことわれない。しぶしぶやることになった。しばらくやっている、思いました。（この障子をやぶったのは妹といとことねこじゃないか）そこで二人もよんで手伝わせることにした。

二人は、母さんが水をかけた障子紙をはがす係になった。私は、そのはがした枠をたわしで洗った。すぐに残った紙が取れるところもあれば、な



かなか取れないところもあった。

この日は、天気はよかったけど、とつても風が強くて寒かった。おまけに水も冷たくて、たわしをこする手がいたいをこえて感覚がおかしくなるほどだった。みかねた母さんが、代わってくれた。私は、洗った枠を干す役になった。両手を全開に広げ、枠が地面にあたらないように、つま先立ちで慎重に運んだ。重くて手からぬけ落ちそうだった。

次は、それを家の側面に立てかけて、布でふいた。何枚あるか分からない枠を運んでふくのは大変だった。とにかく風が強くて、干した枠が時々たおれそうにはなったけど、天気がよかったのですぐにかわきそうだった。

かわかしている間に、障子紙とのりを買いにホームセンターへ行った。障子紙は色々な種類があった。桜の模様がはられているのや、やぶれにくいものなどがあってまよっていたら、

「どうせすぐやぶれるけん一番安いのにしよう」



と母さんが言った。(模様がついているのがよかったな) と言いそうになったけどこらえた。帰ると、すぐ作業だ。二枚ずつ枠を部屋に運んでねかせた。水でのりを枠の一本一本にぬっていくのが、とても大変だった。つけすぎたらたれてくるし、少なかったらすぐかわくしという具合だ。最初はハケでいいねいにつけていたけど手はのりだらけになるし、しんきなのでもう指でやることにした。そのうち、足やこしがいたくなり、何より、ぎつな私には、細かい作業は続かない。いとこと妹はたのしいと言つてせつせとぬっていた。

のりづけが終わると、妹といとこが障子紙を協力してはっていった。角がずれないように、ピッタリ合わせてゆっくり障子紙をころがしながら広げていった。のりはちゃんとつけたつもりだったが、紙がくっついていないところが何か所もあって、つけ直しもたくさんした。これと同じことを何回も何回もくり返した。終わってみると全部で9枚しあげていた。最後に、はり終わった障子をもとにもどすのも大変だった。同じように見え



でも、しきいと合わなかったり、同じ所を取っ手が二つきたりして何度もやり直した。やっと終わった時は、やりきった気持ちでいっぱいだった。(このきれいな障子はいつまでもつかないかな。)と思いつながらかたづけをした。

結局、一枚は一週間もたなかった。

妹が産まれた

伊与喜小学校五年 桜木 杏奈

「あんなちゃん、赤ちゃんが産まれるかもしれんけん帰る準備をして。」と先生に言われ、いそいで帰る準備をしました。その時、私は（妹が産まれる。）と思いました。おばあちゃんの車があったので、走って乗りました。（妹は元気に産まれてくるのかな。）とずっと考えていました。

しばらくすると病院についたので、走ってお母さんの病室に入るとお母さんは、落ち着いた感じでした。

「あら？早かったね。妹はまだまだやで。」

と言いました。少ししてお父さんが来ました。

落ち着いた様子で、

「子どもは？」

と聞きました。

お母さんが、

「え？来るが早すぎん？まだだよ。」

と少し笑いながら言いました。

話をしているとお母さんが汗をいっぱいかいて、体を丸くして、歯をくいしばって苦しそうな感じでした。私とお父さんとおばあちゃんがすぐに気づいて、

「どうしたか？」

と聞きました。お母さんが、

「いたい……。いたい……。」

とすごくいたそうな感じで言いました。助産師さんがじんつうのいたさ
が分かる大きな機械をもってきてみんなで見ました。わたしは、お母さん
の手をにぎって、（がんばって妹を産んで。）と思いました。お父さんはせ
なかをさすり、おばあちゃんはこしをさすっていました。



お母さんが分べん室に入っていききました。私は、（お母さん大丈夫やろうか。）と思いました。

三十分くらいして、お父さんと私がよばれて分べん室に入りました。お母さんは、赤ちゃんを産もうと、

「うーん。うーん。」

とがんばっていました。お父さんは、

「がんばれ。」

と大きな声で言いました。病院の先生は、

「赤ちゃんの頭が見えてきてるよ!!」

と落ち着いた感じで、言いました。私は、

「がんばって赤ちゃん産んで。」

と心配しながら言いました。

お母さんは歯をくいしばって、真っ赤な顔をしていました。いっぱい出ている汗は、助産師さんがふいてくれていました。助産師さんは、



「一回息すってー。もう一回ふんばって!!」
と言いました。

お母さんは、私の手を血が止まるくらい強くにぎっていました。私もすっかりお母さんの手をにぎりかえました。お母さんがふんばっていると、赤ちゃんが産まれました。赤ちゃんはまるまって産まれてきました。病院の先生がへそのおを切ったら赤ちゃんが、

「オギャー、オギャー。」

と元気な声で泣きました。赤ちゃんのはだの色は、青むらさきっぽい色に見えました。お父さんは、私の見たことのない笑顔で、私に、

「よかったね。妹が産まれて。」

と笑って言いました。お父さんは、病室にもどっていきました。

私は、初めてたいばんを見ました。見ると体の中にあるちようみたいでした。助産師さんが手ぶくろをかしてくれましたので、たいばんをさわってみるとゼリーみたいに、ブヨブヨしていました。私は、



「たいばん：ゼリーをすでにさわっているみたいでなんかいやだなあ。」
と言いました。お母さんがそれを聞いて、

「お母さんにも、たいばん初めてやけん見せてくれん？」

と言いました。たいばんを見て、お母さんは私と同じように言いました。
妹の産まれる所が見れたし、元気そうに泣いている妹が産まれて、良い
立ち合い体験が出来たのでとてもうれしかったです。

約半年たって、妹はいっぱい笑うようになり、一人でおもちやで遊んだり
します。ずりばいをして前に少しずつ進んで好きな所に行くので、みんなを
こまらせることがあります。私がりによくゆう食を食べさせてあげると、
妹はすごく喜んで自分から口をあけて食べてくれます。とつてもかわいい
妹です。早く大きくなって遊んだり、楽しい話をしたいです。

楽しい物作り

田ノ口小学校六年 津田 颯斗

「颯斗。竹とってきたで。」

じいちゃんがうら山から、竹を一本とってきてくれた。

「おお！ありがとうございます！」

ぼくが弓矢を作るために、わざわざ山からとってきてくれた。竹のふしが、真ん中にならないように切ると、「ひごのかみ」でふしをけずって、紙やすりでとげとげした竹のせんいをすった。「ひごのかみ」というのは、ナイフの名前で、知っている人は、みんなそう呼んでいる。

「よし、じゃあ次はひもつけなあ。」

竹の両はしに切れこみを入れるけど、とめるものがないので、これが少



し難しい。ノコギリで切れこみを入れると、「ひごのかみ」でけずっていった。

その後は、竹にひもをつける。竹にアルミニウムはくをまいて、ろうそくであぶって、竹を曲げながら糸をはらせた。やっとのことで弓が完成した。

次は矢をつくる。じいちゃんがとってきてくれた細い竹の先をとがらせて、弓の糸をかける切れこみを入れようとしていたとき、じいちゃんが、「矢は先が太くて、かける所が細い方じゃないとまっすぐ飛ばんぞ。」と教えてくれた。

「えっ、そうながや。」

ぼくはすぐにやり直して、新しいのを作った。先の方をけずってとがらせ、さつきと同じように切れこみを入れた。次は、まっすぐ飛んでいくように、じいちゃんが友だちからもらったカモの羽を竹の後ろに差しこんだ。羽は十センチくらいで青色に光るかっこいい羽を選んだ。羽を細く



てじょうぶな糸で結びつけて、やっと、矢もでき上がった。矢の先にホルンフェルスという石で作った矢じりをつけようかと思っただけ、先が重くなって飛ばなくなったらいけないから、一回目の矢にはつけなかった。

「じいちゃん。できたで。」

と声をかけると、

「じゃあ、的に当ててみ。」

と、じいちゃんが言うので、はっぱうスチロールに的を書いて、さっそく、弓を射った。矢の先の的をめがけて、思いきり弓をひいた。矢は的のはしっこにつきささり、かんつうした。

「うおっ！」

びっくりして、思わず声をあげた。じいちゃんも少しおどろいていた様子だった。矢を見に行くと、すこし、先がまがっていた。一度公園に出てどれほど飛ぶかためしてみると、八十メートルはゆうにこしていた。

「おお、だいぶ飛ぶやん。こればあ飛んだら上等よ。」



とじいちゃんに言ってもらってうれしかった。

そのあとは、家での真ん中に当てたくて練習をした。何回も何回も弓を射った。どうしても真ん中には当たらなかった。そこで、弓を長くつくってみた。一回目は難しく思ったけど、二回目となれば簡単だ。矢も、長い弓用を作った。しかし、手抜きして竹をろうそくであぶらなかったからか、二回くらい射ると、弓の真ん中に割れ目ができてしまった。

その一方で、矢はすぐくきれいにできた。ためしに、短い弓で長い矢を射ってみると、なんと真ん中に命中した。

「おお、すげえ。」

自分が作った弓と矢に大満足だった。

ぼくは、四年前から野外塾に参加している。野外塾では、木工、製鉄、刃物づくりなどの物づくりの他に山登りや川遊びもする。野外塾の良さは、自分で作ったもので遊ぶことができることや何か物を作り終えたときの達成感を味わえることだ。特に難しく地道だからこそ、大きな達成感が得ら



れるのだ。

今回自分で弓と矢を作ろうと思ったのも、この野外塾で弓を作った経験があるから、もう一度自分の力で作ってみたいと思った。矢を作るのは初めてで、じいちゃんにアドバイスをもらいながら作った。しかし、長い弓用の矢を短い弓で射ろうと思ったのは自分の考えだった。思った以上の出来ばえはうれしかった。やっぱり物作りは楽しい。

野外塾で経験したことや自分の考えを取り入れ、これからも物作りに挑戦したい。

吹奏楽部

佐賀中学校一年 土居 沙也加

私が今、がんばっていることは、部活動です。私は吹奏楽部に入部して
いてほぼ毎日、朝練と夕練をがんばっています。

私は、五月に正式に吹奏楽部に入部しました。吹奏楽部には小学六年生
の時からずっと入りたいと思っていました。佐中祭や町内の音楽祭の時に
楽器を演奏している先輩たちを見て、私もあんな風にみんなで演奏をして
みたいなど、ずっとあこがれていました。特にパーカッションに目をひか
れました。ドラムをたたいているひまわりちゃんやあやかちゃん達の姿は、
とても輝いていてとてもカッコよかったです。そのことがあって私は、中
学生になったら絶対に吹奏楽部に入ってパーカッションをしたいと思うよ

うになりました。

冬になって、中学校に体験入学として少しの間だけきました。授業の体験もして、ずっと前から楽しみにしていた部活体験をしました。始めに演奏をきかせてもらいました。小さな恋のうたと愛唄をきかせてもらいました。どちらもとても素敵な曲で私も演奏してみたいなと思いました。「やりたい楽器のところに行っているよ。」と言われたので私は迷わずパーカッションのところへ行きました。ひまわりちゃんとあやかちゃんがいて、まず始めに、きそ練習を教えてくださいました。教えてもらってやってみると、少しだけできました。そしてたらひまわりちゃんとあやかちゃんが、

「おお！すごいやん。」

「初めてやのにすごい上手やね。」

とほめてくれました。それからドラムをやりました。エイトビートを教えてもらいました。エイトビートは、体験入学に行く前から少しだけ練習をしていたので、教えてもらおうと上手にすることができました。次に、エ



イトビートの手で足だけ変えてやるという練習をしました。足だけ変えたいのに、足と手がごちゃ混ぜになってしまつて上手にすることができませんでした。すると、

「こうやってやるがで。」

と優しくコツを教えてくださいながら、お手本を見せてくれました。そしてらゆっくりだけでもできました。とても嬉しかったです。

中学生になって、やっと吹奏楽部に入部することができました。私は、パーカッションになることができたので、これから頑張っていきたいと思いました。

五月には、こいのぼりフェスティバルで演奏しました。このこいのぼりフェスティバルが私達にとつての最初の演奏でした。小さな恋のうたのサビらへんのタンバリンがとても難しくて今までずっと練習をしてきました。始まる時はとてもドキドキしました。小さな恋のうたになって、ひまわりちゃんに教わったコツを思い出して演奏しました。まだまだ下手だったけ



れど、いつもの練習の時よりかは何倍も上手く演奏することができたので良かったです。

夏には吹奏楽コンクールにも出場しました。夏の暑い中の練習は大変で、もうつかれたからやめたいな・・・と思ったこともありましたが、「頑張ろう。」とはげましてくれたおかげで頑張って練習をすることができました。

佐中祭や吹奏楽祭などにも出場しました。一番心に残っているのは、定期演奏会です。定期演奏会本番前の練習の時には、パーカッションの三人だけで演奏するアンサンブルの難しいところを何度も練習しました。そして本番になりました。思っていた以上にお客さんが来ていてとてもきんちようしました。始まる前はとてもきんちようしていましたが、やってみると楽しくなってきましたし、アンサンブルも上手く演奏することができました。定期演奏会より後は三年生があまり部活にこれないということを聞きました。いいものにしたかったので上手に演奏ができて本当にうれしかったです。



す。

今ではもう三年生も引退して私達一年生と二年生の計十四人で活動しています。三年生が引退してしまつて、なんかさみしくなつたなど思つた時がありました。でも、三年生がいた時と変わらなくらい元気に演奏をしたいと思ひます。演奏をする時に大切なのは、みんなの心を合わせることだと思ひます。みんなの心が全然合つていないのに音を合わせようとしてもバラバラになつてしまふと思ひます。一人一人がちゃんと練習をしてみんなで心を合わせて団結することが大切だと私は思ひます。

もうすぐ新一年生が学校に入学してきます。入学してきたら私は二年生で先輩となります。もし、新一年生の誰かが吹奏楽部に入部してパーカッションに入つてきてくれたら・・・と考へてみるととてもうれしい気持ちもあるけれど、私が上手に教へることができるかなと少し不安な気持ちもあります。たくさん練習をしてもつともつと上手くなつて一年生にとつていい先輩になれるように頑張つていきたいと思ひます。